



骨粗鬆症ってじつは重要です

骨粗鬆症は、閉経女性だけでなく若年者にも発症し、様々な疾患と関わりがあることをご紹介します。

一 骨粗鬆症になりうる病態 一

1. 女性アスリート
運動のしすぎで、低栄養や無月経になると。
2. 妊娠や出産
胎児や母乳にカルシウムを供給しなければならないため。
3. 高血圧
カルシウム排泄亢進、アンジオテンシンⅡによる破骨細胞活性化など。
4. 慢性閉塞性肺疾患
低栄養、全身性の炎症、運動量低下などにより、50%の患者さんで発症。
5. 糖尿病
高血糖による酸化ストレスで骨質低下や慢性腎臓病による。また、網膜症や神経症を合併すると転倒しやすくなる。
6. 慢性腎臓病
活性型ビタミンD欠乏などにより低カルシウム血症を生じ、二次性副甲状腺機能亢進症を生じる。
7. ステロイド投与
骨芽細胞機能低下、カルシウムの吸収再吸収低下、性ホルモン低下による。
8. 乳がんに対するホルモン療法
アロマターゼ阻害薬は、閉経女性でアンドロゲンからエストロゲンに変換されなくなる。
9. 前立腺がんに対するホルモン療法
アンドロゲン低下により、エストロゲンが低下する。
10. 消化管手術
カルシウムやビタミンDの吸収が低下する。
11. 甲状腺機能亢進症
骨代謝が亢進する。
12. 喫煙
胃腸の働きが低下してカルシウムやビタミンDの吸収抑制、エストロゲン低下による。
13. 飲酒
少量では問題ないが、飲み過ぎると…。
利尿作用でカルシウム排泄亢進、依存症による低栄養、アセトアルデヒドによる酸化ストレスなどによる。酔って転倒して骨折も。



裏面へ続く

寿泉堂綜合病院では地域医療支援病院として病診連携を推進しています。

患者さんのご紹介や外来診療に関するお問い合わせ

寿泉堂綜合病院 地域連携室 ☎024-927-0760（直通）または
☎024-932-6363（代表） にお問い合わせ致します。



表面より続く

—骨粗鬆症が関連する病態—

1. 心血管障害

ビタミンKが低下すると抗炎症作用が低下。

ビタミンDが低下すると血漿レニン活性が亢進して高血圧。

脊柱が後弯すると胸郭異常となり心臓への血流還流障害。

骨粗鬆症の閉経女性は骨塩減少群より3.9倍の心血管疾患発症リスクあり。

2. 呼吸機能障害

脊柱が後弯すると、胸郭可動域制限から肺活量や1秒率が低下。

3. 消化管障害

脊柱が後弯すると、腹腔体積減少し食道裂孔ヘルニア、胃食道逆流症を発症。

さらに、腹部膨満、食欲不振、便秘を発症。

4. 要介護

要介護者の70%が女性であり、その原因の1/4が骨折・転倒や関節疾患。

5. 死亡率上昇

骨粗鬆症により骨折すると、特に男性で死亡率が上昇。



このように、骨粗鬆症は、広い分野で重要な疾患といえます。

予防は、小児期から思春期にかけてしっかり栄養とカルシウム、

ビタミンDを摂取して骨をたくさん作ることが最も大切です。高齢

になったら、骨折予防、具体的には転倒しないように筋力強化

(ロコモ体操など)や室内の片付けなどが大切です。骨粗鬆症

になってしまったら、適切な加療も必要です。

ご心配の節は是非、当院へご相談ください。

整形外科：山田 仁

当院は骨粗鬆症外来を開設し、福島県の骨粗鬆症診療の底上げを目的に計画された臨床研究

「Project-F」を推進しています。

*「Project-F」とは、「Fukushima Fragility Fracture Prevention Project」の略称です。

寿泉堂綜合病院では地域医療支援病院として病診連携を推進しています。

患者さんのご紹介や外来診療に関するお問い合わせ

寿泉堂綜合病院 地域連携室 ☎024-927-0760 (直通) または

☎024-932-6363 (代表) にお問い合わせください。